



2023年3月3日 東地申第58号

## 「2023年度東京総合車両センター業務量等について」に関する申し入れを行う!

1月30日「2023年度東京総合車両センター業務量等について」の提案を受けました。

### 2023年度の東京総合車両センターの業務量は、

- ◆ 定期検査両数は、今年度と比較して76両の減少。
- ◆ 中央快速線へのグリーン車導入やホームドア導入に伴う車両改造工事。
- ◆ 山手線、京浜東北線のワンマン改造工事。
- ◆ 大宮総合車両センターとの一部定期検査、各総合車両センターとの一部改造工事の業務量調整。
- ◆ 空調接触器検修業務をJR東日本テクノロジー株式会社に新規業務委託予定。

東京総合車両センターは首都圏輸送の安全・安定輸送の確保と快適な車両の提供のために、首都圏における通勤・近郊型新系列車両のマザーベースとして重要な役割を担っています。組織再編により、東京・大宮・長野の各車両センターが首都圏本部所属となりましたが、東京総合車両センターの役割は変わらず、今後ますます重要となっていきます。

一方で「ミライの車両サービス&エンジニアリング構創」が進められていますが、将来どのように職場が変化していくのか具体的に知らされず、不安の声もあがっています。また、採用者に対して退職者が多く、今後も社員数が減少していく中で若年層の離職も後を絶ちません。

よって、業務の平準化と適切な要員を確保し、労働環境の改善と働きがいを向上させるために、以下の項目を首都圏本部に申し入れました!

1. 組織再編により東京総合車両センターは首都圏本部所属となったが、東京総合車両センターの役割を明らかにすること。また「ミライの車両サービス&エンジニアリング構創」の進捗状況を示し、東京総合車両センターの将来像を明らかにすること。
2. 他の総合車両センターと行われる定期検査および改造工事の業務量調整の考え方をそれぞれ明らかにすること。
3. 東京総合車両センターにおける2023年度の標準数を示し、余裕をもった工程と要員を確保し各科において業務の平準化を図ること。また、各派出所の担務養成を行い、要員を確保すること。さらに、近年若年層の離職者が多いことについて会社の認識を示し、技術技能継承を確実にできる体制を確保し、労働環境の改善を図ること。
4. 装置科における空調接触器検修業務を業務委託する目的と根拠を明らかにすること。また、教育を今年度内に確実にやり車両品質が低下しないようにすること。
5. 老朽取替工事など設備に関する工事について2023年度に計画しているものを具体的に明らかにすること。また、労働環境改善のための必要な設備を整備すること。
6. 11月24日に輪軸作業場で火災が発生し避難誘導等に課題があったが、どのように対策を講じてきたのかを明らかにし、今後、防災の観点からも現実に即した実践的な避難誘導訓練を行うこと。

**今後、現場の声をもとに団体交渉に臨んでいきます!**